大阪大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニックの分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、専攻医一人一人に「本物の麻酔科専門医」としての知識と技量および社会性を習得・体得させ、先進医療と地域医療のニーズに応える責任ある医師を育成するための研修環境を提供することを主眼としている。

本研修プログラムの基幹施設は、国公立大学病院の中でも有数の臨床実績を誇る大阪大学医学部附属病院（以下、阪大病院）である。阪大病院の麻酔科および集中治療部（ＩＣＵ）の母体である大阪大学医学部麻酔集中治療医学教室（以下、阪大麻酔科）は、これまでに多数の麻酔科専攻医を指導、育成し、臨床のみならず学術の面でも優れた麻酔科専門医として世に輩出しており、多くの連携病院の医療のニーズに応えている。

麻酔科専門医として認められるためには、多くの症例を経験する中で幅広い知識と技術を習得し体得せねばならない。あらゆる診療科における様々な手術を、新生児から超高齢者にいたるまで、そして重症度の低いものから高いものまで、幅広く多く経験する必要がある。そのためには症例の量と質が豊富であり、多くの指導医を有するプログラムで研修することが望ましい。

本プログラムの症例の量と質および指導医の豊富さは、全国の麻酔科専門研修プログラムの中でも際立っている。したがって本プログラムでの研修によって、麻酔科専攻医は幅広い臨床経験を積みつつ丁寧な指導を受けることができ、麻酔科専門医に必要な知識と技術を得ることができる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- ４年間を通して、麻酔科専門医として必要な症例数および経験必要症例数の規定数を達成し、かつ将来的に希望するサブスペシャルティの経験を積むことができるように、柔軟なローテーションを構築する。
- 初年度は病院群のどの施設から専門研修を開始しても良いが、研修期間終了までに阪大病院（基幹施設）で６か月以上の研修を行うことが原則となる。加えて、連携施設においては３か月未満の研修とならないことが原則となる。よって基幹施設においては６か月以上、連携施設においては３か月以上の研修が必須である。
- ４年間の研修期間中に原則として２か月以上の集中治療研修を行う。
- 専門研修の期間は、専攻医は大阪大学医学部麻酔集中治療医学教室に属するものとする。
- 次年度以降の研修施設については、専攻医の長期的なビジョン、現時点での研修の進捗度、および関連施設全体の人員体制を考慮して、研修管理委員会が異動先を決定する。したがって**専攻医が希望する施設を指定して異動先を決定することはない**。
- 集中治療の専門的な研修を希望する場合は以下のプランを予定している。
  ・１−２年目で麻酔科専門医試験受験に必須な症例数を終了する。
  ・３−４年目（のうち１年間は）に阪大で集中治療部専従１年間、もしくは事情に応じて大阪急性期総合医療センター・大阪国際がんセンター・大阪母子医療センター・大阪警察病院・大阪医療センターICUのいずれかで研修する。
  ＊集中治療専門医の受験資格は麻酔科専門医プログラム修了後にカリキュラム制で２年間の研修を実施することが必要となる。
- ペインクリニックの研修を希望する場合は以下のプランを予定している。
  【1】ペインクリニック（緩和ケアを含む）を専門的に研修したい場合
  ・１−２年目で麻酔科専門医試験受験に必須な症例数を終了する。
  ・３−４年目に大阪大学医学部附属病院で１年間研修する（ペイン専従（週１手術麻酔の外勤））。
  【2】ペインクリニック（緩和ケアを含む）をひとまず研修したい場合

・２～４年目に大阪大学医学部附属病院で３か月専従ローテート研修する（ペイン専従（週１手術麻酔の外勤）。

・３か月の研修終了後に専門的にペインの研修を継続したい場合は、【1】に準ずる。

研修実施計画例

	基幹施設より開始	連携施設より開始	ペイン研修	集中治療専門研修
初年度 前期	阪大病院 （麻酔）	大阪医療センター （麻酔）	大阪警察病院 （麻酔）	大阪急性期医療センター （麻酔）
初年度 後期	阪大病院 （麻酔）	大阪医療センター （麻酔）	大阪警察病院 （麻酔）	大阪急性期医療センター （麻酔）
２年度 前期	阪大病院 （麻酔）	大阪医療センター （麻酔）	大阪警察病院 （麻酔）	大阪急性期医療センター （麻酔・ICU）
２年度 後期	阪大病院 （ICU）	大阪医療センター （麻酔）	大阪警察病院 （麻酔）	大阪急性期医療センター （麻酔・ICU）
３年度 前期	大阪急性期医療センター （麻酔・ICU）	阪大病院 （麻酔）	阪大病院 （ペイン（３月）・麻酔(3月)）	阪大病院 （ICU）
３年度 後期	大阪急性期医療センター （麻酔・ICU）	阪大病院 （麻酔・ICU）	阪大病院 （麻酔）	阪大病院 （ICU）
４年度 前期	市立豊中病院 （麻酔・ICU）	大阪国際がんセンター （麻酔・ICU）	阪大病院 （ペイン）	大阪母子医療センター （麻酔）
４年度 後期	市立豊中病院 （麻酔・ICU）	大阪国際がんセンター （麻酔・ICU）	阪大病院 （ペイン）	大阪母子医療センター （PICU）

週間予定表

阪大病院手術室勤務の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
当直		当直				当直	

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

大阪大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：吉田　健史

専門研修指導医：

吉田　健史　　（麻酔・集中治療）

松田　陽一　（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
高橋　亜矢子（麻酔・ペインクリニック）
井浦　晃　（麻酔）
山本　俊介　（麻酔・心臓血管麻酔・区域麻酔）
田中　愛子　（麻酔・集中治療）
松本　悠　（麻酔・小児麻酔・神経麻酔）
妙中　浩紀　（麻酔・集中治療）
木西　悠紀　（麻酔・産科麻酔）
池村　彩華　（麻酔・集中治療）
播磨　恵　（麻酔・産科麻酔）
小山　有紀子（麻酔・集中治療）
松本　充弘　（麻酔・集中治療）
山下　智範　（麻酔・集中治療）
榎谷　祐亮　（麻酔・集中治療）
橋本　明佳　（麻酔・集中治療）
岩田　博文　（麻酔・集中治療）
古出　萌　（麻酔・集中治療）
山村　愛　（麻酔・集中治療）
森岡　智之　（麻酔・集中治療）
弓場　智雄　（麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔）
岡田　康佑　（麻酔・心臓麻酔）
仲井　祐貴　（麻酔）
氏本　大介　（麻酔・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔）
堀池　博吏　（麻酔・ペインクリニック）

専門医：西尾　龍太郎（麻酔）
堺　奈生美　（麻酔）
野田　純希　（麻酔）
星野　瑠音　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：49

特徴：

・あらゆる診療科があり、基本的な手術から脳死移植を含む複雑な手術、ASA１～６の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
・２年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。
・最新の手術に対応した最先端の麻酔や無痛分娩を含む産科麻酔についても経験することが可能である。

・手術麻酔、集中治療、ペインクリニック等の麻酔に関連するあらゆる分野を経験することが可能である。

2025年度実績

麻酔科管理全症例数	7565例
小児（６歳未満）の麻酔	362例
帝王切開の麻酔	196例
心臓血管手術の麻酔	655例
胸部外科手術の麻酔	442例
脳神経外科の麻酔	230例

②　専門研修連携施設

1. 大阪府済生会中津病院

研修実施責任者：岩倉健夫

専門研修指導医：岩倉健夫（麻酔）
清水智明（麻酔）
岡雅行（麻酔）
金子路子（麻酔）
松山恭悠（麻酔）
林穏江（麻酔）
中野一菜（麻酔）

専門医：　古曽部和彦（麻酔）
皆川陽子（麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：311

特徴：一般外科はもとより、心臓外科・脳神経外科・形成外科・歯科口腔外科など幅広い症例の経験が出来る。

2. 大阪警察病院

研修実施責任者：北 貴志

専門研修指導医：北 貴志（麻酔）
井上潤一（麻酔，ペイン）
一澤真珠（麻酔、ペイン）
河合恵子（麻酔,集中治療）
寺西理恵（麻酔）
上田篤史（麻酔）
竹田峰子（麻酔）
小山英彦（麻酔、集中治療）

柴田晶カール（麻酔）
池田真悠実（麻酔，ペイン）

※専門研修指導医　計　10　名

専門医：
李太訓　（麻酔）
久保飛鳥（麻酔）
孫寅硯　（麻酔）
竹山恵梨子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：295
特徴：症例数の多い急性期病院であり小児外科を除くほとんどの科の症例が研修できる。

■本プログラム　専門研修指導医按分数　5人

■麻酔科管理全症例数（2025 年度）　6833　例

3. 大阪国際がんセンター

研修実施責任者：久利通興（麻酔、周術期禁煙、周術期アナフィラキシー）
専門研修指導医：
久利通興（麻酔、周術期禁煙、周術期アナフィラキシー）
大川恵（麻酔，集中治療）
飯田裕司（麻酔，集中治療）
朝倉芳美（麻酔）
日生下由紀（麻酔，集中治療）
古川佳穂（麻酔，集中治療）
駒田暢（麻酔，集中治療）
樋口美奈（麻酔，集中治療）
専門研修指導医計８名
専門医：橋口桜子(麻酔)

認定病院番号：187
特徴：集中治療室のローテーションによる集中治療専門医資格の取得が可能
■本プログラム　専門研修指導医按分数　6 人
■2025 年度症例数
麻酔科管理全症例数　【　4176　】
小児(6 歳未満)の麻酔　【　0　】
帝王切開術の麻酔　【　0　】

心臓血管手術の麻酔　【　0　】
胸部外科手術の麻酔　【　507　】
脳神経外科の麻酔　【　46　】

4. 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

研修実施責任者：渋谷博美
専門研修指導医：渋谷博美（麻酔）
天野栄三（麻酔）
島川宜子（麻酔）
石井裕子（麻酔）
伊藤千明（麻酔）
上田祥弘（麻酔）
山路寛人（麻酔・心臓麻酔）
中西裕貴子（麻酔）
桐山有紀（麻酔・心臓麻酔・集中治療）
浜川綾子（麻酔）
山形晃太（麻酔）
専門医：　森　裕美（麻酔）
首藤　喬（麻酔）
三田　碧（麻酔）
原　恵理子（麻酔）
認定病院番号：584
特徴：当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町４丁目」駅上にあり、窓越しに大阪城と難波の宮が見えます。心臓血管麻酔専門医認定施設であり、低侵襲の MICS や大血管手術、mitral clip や TAVI などの麻酔も多く経験できます。そのほか多くの診療科の手術麻酔を施行しています。ロボット支援下低侵襲手術や手術室外で施行される脳血管内手術にも対応しています。外科系診療科との連携もとれており、とても働きやすい職場です。ICU 研修も行っています。敷地内保育園，病児保育や夜間保育があります。

5. 大阪急性期・総合医療センター

研修プログラム統括責任者：平尾　収
専門研修指導医：平尾 収　（麻酔全般・集中治療・呼吸管理）
山下 健次　（麻酔全般・集中治療・循環管理）
平松 大典　（麻酔全般・集中治療）
東名 里恵　（麻酔全般・集中治療）
寺島 弘康　（麻酔全般・集中治療・循環管理・心臓麻酔）
丸山 直子　（麻酔全般・集中治療・循環管理）

※専門研修指導医 計 6 名

専門医：和田 沙江子 （麻酔全般）

安部 瑞穂 （麻酔全般）

勝田 泉 （麻酔全般）

麻酔科学会認定病院番号： 70 号

特徴：救命救急医療や循環器医療などの急性期医療と、がんや腎移植などの高度専

門医療を行う合計 35 の診療科が連携し、良質な医療を提供している。集中治療のローテーション可能

① 2025 年度の麻酔科管理症例数 5505

② 専門研修指導医の人数 6

2025年度実績

麻酔科管理全症例数	5505例
小児（６歳未満）の麻酔	82例
帝王切開の麻酔	215例
心臓血管手術の麻酔	359例
胸部外科手術の麻酔	186例
脳神経外科の麻酔	164例

6. 箕面市立病院

研修実施責任者：有村 佳修

専門研修指導医：有村 佳修（麻酔）

上田 洋子（麻酔）

宮田 有香（麻酔）

須田 万里（麻酔）

谷 大輔（麻酔）

専門医 蒋 妍 （麻酔）

認定病院番号：368

特徴：当院は、地域中核病院ならではの幅広い症例と、落ち着いた教育環境を整えた病院です。外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、耳鼻科などを、バランスよく学べる環境にあります。一例一例を丁寧に経験でき、指導医との距離も近く、疑問点をその場で解決しながら、確実に力を伸ばせます。オンコール体制も、無理のないように配慮しています

7. 市立豊中病院

研修実施責任者：高田幸治(麻酔集中治療)

専門研修指導医：高田幸治(麻酔集中治療)

二宮万理江(麻酔集中治療)

滝本佳予(麻酔集中治療)
八木拓也(麻酔集中治療)
専門医：　奥野勇輔(麻酔集中治療)

麻酔科学会認定病院番号：352

特徴：

・全ての診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。また、緊急手術も多く経験できる。
・2年間の在籍で心臓外科手術を除く特殊症例の症例数の達成が可能である。
・集中治療と緩和ケアの研修を行うこともできる。

8. 市立池田病院

研修実施責任者:森　梓

専門研修指導医：

森　梓（手術麻酔・ペインクリニック）
植松　弘進（手術麻酔・ペインクリニック）
八木　真実（手術麻酔）
村田　久仁子（手術麻酔）
別府　曜子（手術麻酔・緩和）
藤原　利江（手術麻酔）

専門医：永井　美和子
橘　陽介
星　紗弥加
田村　純子
藤田　三千恵
岡口　千夏

麻酔科学会認定病院番号：21400841

特徴： ペインクリニックの研修可能

9. 国立循環器病研究センター

研修実施責任者：前田　琢磨

専門研修指導医：金澤　裕子　（心臓麻酔）
前田　琢磨　（心臓麻酔）
南　公人　（心臓麻酔）
下川　亮　（心臓麻酔）
月永　晶人　（心臓麻酔）
森永　將裕（心臓麻酔）
三浦　真之介

麻酔科病院認定番号　168　　1978 年麻酔科学会認定病院

2025 年麻酔科管理全症例数　　2494 症例

小児（6歳未満）	230
帝王切開	52
心臓血管手術	1706
胸部外科	13
脳外科	564

センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月1回程度あります。麻酔科医はスタッフ8名レジデント18名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、オンコール1名ですべての緊急症に対応しています。

10. 関西医科大学附属病院

■研修実施責任者：上林 卓彦

■専門研修指導医：上林 卓彦 （麻酔）
萩平 哲 （麻酔，呼吸器外科麻酔）
中本 達夫 （麻酔，ペインクリニック，区域麻酔，神経ブロック）
梅垣 岳志 （麻酔，集中治療）
井口　直也 （麻酔，集中治療）
伊藤 明日香 （麻酔，心臓血管麻酔）
野々村 智子 （麻酔）
旭爪 章統 （麻酔，ペインクリニック）
金沢 路子 （麻酔，産科麻酔）
楠　宗矩 （麻酔）
右馬　猛生 （麻酔，集中治療）
添田 岳宏 （麻酔，集中治療）
内田 整 （麻酔，小児麻酔）

※専門研修指導医　計13名

専門医： 橋本 千香子（麻酔）
福井　有華（麻酔）

■麻酔科認定病院番号：1234

■特徴：麻酔の各種分野（呼吸器外科麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）のエキスパートが揃っており、多数・多彩な疾患・手術患者に対する科学的全身管理が研修可能である。
また、総合集中治療部では麻酔科を中心にclosed systemで集中治療診療を行っており、内科系・外科系を問わず重症患者の全身管理が研修できます。

■2025 年度症例数：

麻酔科管理全症例数　・・・　7938 例
小児（6 歳未満）の麻酔　・・・　417 例
帝王切開術の麻酔　・・・　287 例
心臓血管手術の麻酔　・・・　371 例
胸部外科手術の麻酔　・・・　527 例
脳神経外科の麻酔　・・・　305 例

11. 大阪はびきの医療センター

研修実施責任者：　高内　裕司
専門研修指導医：　高内　裕司（麻酔全般，集中治療）
大橋　祥文（麻酔全般，集中治療）
※専門研修指導医　計 2 名
麻酔科認定病院番号：164
特徴： 呼吸器疾患の専門施設として、低肺機能症例や酸素投与・人工呼吸を必要とする重症症例、各種呼吸器感染症症例の周術期管理を経験できる。また、呼吸器外科の様々な手術症例も経験でき、産婦人科症例も豊富である。（帝王切開症例は、主に産婦人科の自科麻酔で行っているが、プログラムで必要であれば麻酔科管理をさらに増やすことは可能。）
■本プログラム　専門研修指導医按分数　0.5 人
■2025 年度症例数
麻酔科管理全症例数　【　1527　】
小児(6 歳未満)の麻酔　【　15　】
帝王切開術の麻酔　【　4　】
心臓血管手術の麻酔　【　0　】
胸部外科手術の麻酔　【　220　】
脳神経外科の麻酔　【　0　】

12. 大阪母子医療センター

研修実施責任者：　竹下　淳（小児・産科麻酔）
専門研修指導医：　竹下　淳（小児・産科麻酔）
川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児・産科麻酔）
増茂　薫（小児・産科麻酔）
阪上　愛（小児・産科麻酔）
西垣　厚（小児集中治療）
専門医：　征矢　尚美　（小児・産科麻酔）

栗畑 綾香　　（小児・産科麻酔）
佐伯 淳人 （小児・産科麻酔）
井川 大輝 （小児・産科麻酔）

認定病院番号：第260号
特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科)、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科)、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科)、口唇口蓋裂（口腔外科)、小耳症、母斑、多合指(趾)症（形成外科)、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科)、斜視、未熟児網膜症（眼科)、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科)、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科)、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRI などの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

2025年度
症例数
麻酔科管理全症例数
小児（6歳未満）の麻酔　　2122例
帝王切開術の麻酔　　421例
心臓血管手術の麻酔 331例
胸部外科手術の麻酔 13例
脳神経外科手術の麻酔　　62**例**

13. 大阪ろうさい病院

研修実施責任者：松浦康司
専門研修指導医：松浦康司（麻酔，救急）
宮田　嘉久（麻酔）
横川　直美（麻酔　ペインクリニック）
山下　淳（麻酔　心臓麻酔）
貴志　暢之（麻酔　ペインクリニック）
桂　ナリ（麻酔）
内本　明宏（麻酔　心臓麻酔）
専門医：　竹下　典子（麻酔）
認定施設番号　179

特徴：当院は645床の総合病院であり、小児外科以外のほぼすべての科の麻酔症例が経験できる。ペインクリニックも希望があれば考慮できる環境であるがまずは麻酔科医としての自立促進を最優先で考えている病院である。麻酔方法は麻酔科医に一任しているが、直近は吸入麻酔だけではなく静脈麻酔にも力を入れており昨年は静脈麻酔の比率が４割を超えるまでになってきた。このように麻酔科医として質の高い麻酔管理ができるように指導医・スタッフ一同全力で支援している。

14. 関西労災病院

研修実施責任者：前田　晃彦

専門研修指導医：前田　晃彦(麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔
上山 博史（麻酔、産科麻酔）
田村 岳士（麻酔）
清中 さわみ（麻酔）
稲垣 佳苗（麻酔）
田中 みちる（麻酔）

専門医：　中村 藍（麻酔）
河野 悠（麻酔）
加藤　裕美子（麻酔）
魚谷　美貴（麻酔）
安田　めぐみ（麻酔）
下川　茉理（麻酔）
劉　嘉叡（麻酔）

認定病院番号：327

特徴：阪神地区の急性期医療、がん診療の中核病院。２台の手術支援ロボットを有し消化器外科（食道、胃、大腸、肝臓、膵臓)、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科でロボット支援手術を行うなど領域によっては教育機関と同等以上の医療を実践。また心臓血管外科、脳神経外科、末梢神経ブロック施行症例も豊富である。

15. 西宮市立中央病院

研修実施責任者：前田倫

専門研修指導医：前田倫（臨床麻酔　ペインクリニック）

松村陽子（臨床麻酔　ペインクリニック）

菅島裕美（臨床麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：571

特徴：日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本緩和医療学会、日本頭痛学会の認定研修施設

16. 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：

糟谷　周吾（麻酔）
大原　玲子（麻酔、周産期）
馬場　千晶（麻酔）
佐藤　正規（麻酔、周産期）
蜷川　純（麻酔、心臓血管）
山下　陽子（麻酔、周産期）
行正　翔（麻酔）
古田　真知子（麻酔）
浦中　誠（麻酔、心臓血管）
橋谷　舞（麻酔、心臓血管）
伊集院　亜梨紗（麻酔、周産期）
兒玉　洋介（麻酔）
久米　澄子（麻酔、周産期）
岩田　裕貴（麻酔）
岩田　愛理（麻酔、周産期）

認定病院番号：87

特徴：

・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で、小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について、指導者の下で経験・習得できる。

・国内最大の小児集中治療施設で、救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる。

・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる。

・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる。

・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。

・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある。

麻酔科管理症例　約 6600 症例、帝王切開約 800 症例、無痛分娩約 1200 例

17. 三重県立総合医療センター

プログラム統括責任者：庄村　千恵子（麻酔）

専門研修指導医：庄村　千恵子（麻酔）
古橋　一壽　（麻酔）
冨田　正樹　（救急・集中治療）
永井　岳　　（麻酔）

専門医：山本　勇樹　（麻酔）
植島　康博　（麻酔）
野村　志保里（麻酔）

認定病院番号：775

特徴：当院は，産科，胸部外科，小児外科，脳神経外科，心臓血管外科手術の麻酔など，専門医取得に必要な主要領域の症例に対応している施設である．各専門領域の麻酔管理を通じて，専門医取得に必要な知識・技術をバランスよく習得できる環境を有している．特に産科麻酔領域では，無痛分娩において周産期麻酔の安全管理に積極的に取り組むとともに，地域の母体救急を含む周産期医療に対応し、実臨床に即した実践的な研修を行っている．

18．日本生命済生会日本生命病院

研修実施責任者：花田　留美

専門研修指導医：花田　留美（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
玉井　裕（麻酔・緩和医療）
藤原　優子（麻酔）
日野　未来（麻酔・緩和医療）
博多　紗綾（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
清水　梨江（麻酔、ペインクリニック）
津村　八江（麻酔）
森本　正昭（麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：21400569

ペインクリニック学会指定研修施設認定番号：2018006

緩和医療学会 認定研修施設認定番号：20222089

特徴： ペインクリニック診療　（外来診療、透視下ブロックなど）の研修可能
緩和医療：身体症状に関して直接介入型の緩和ケア研修が可能。介入症例数も多いため、将来的に緩和医療学会　認定医取得も可能。

19．和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股 知之

専門研修指導医：川股 知之　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
時永 泰行　（麻酔）
神田 浩嗣　（麻酔、心臓血管外科麻酔）
栗山 俊之　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
山﨑 亮典　（麻酔、区域麻酔）
槙野 仁奈　（麻酔）
平井 亜葵　（麻酔）

黒崎 弘倫　（麻酔）
吉田 朱里　（麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）
神田 佳典　（麻酔）
丸山 智之　（麻酔、ペインクリニック）
山﨑 景子　（麻酔、集中治療）
専門医：関 尭文　（麻酔）
角南 昇吾　（麻酔）
中村 安寿左（麻酔）

麻酔科認定施設番号：40

特徴：　ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能
ロボット支援手術・経カテーテル大動脈弁留置術・低侵襲心臓手術など先進的手術症例、小児心臓外科手術、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下・透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟・緩和ケアチームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

2025年度　麻酔科管理症例数 6,273症例

小児（6歳未満）の麻酔	206 症例
帝王切開術の麻酔	146 症例
心臓血管手術の麻酔	413 症例
胸部外科手術の麻酔	338 症例
脳神経外科手術の麻酔	207 症例

20. 川西市立総合医療センター

川西市立総合医療センター
研修実施責任者：盤井多美子
専門研修指導医：盤井多美子（麻酔、産科麻酔）
小野まゆ（麻酔、ペインクリニック）
坂野英俊（麻酔）
小澤満喜子（麻酔、集中治療）
中田由梨子（麻酔）
神崎由莉（麻酔、ペインクリニック）
神崎亮（麻酔、ペインクリニック）
山田万代（麻酔）
専門医　：谷佐季（麻酔）
西村祐希（麻酔）

専門研修指導医　計8名

麻酔科認定病院番号：2009

特徴:当院は地域の急性期医療を担う中核病院であり多くの救急患者を受け入れているため、整形外科の外傷、脊髄損傷、開頭手術などの緊急手術にかかわることができ、実戦的な経験をしっかり積むことができます。麻酔管理においては区域麻酔や伝達麻酔を積極的に用いてシームレスな疼痛管理を心がけており、一症例ごとに丁寧で患者に寄り添った周術期管理を行っています。

さらに、専門医によるペインクリニック外来では神経ブロックや漢方による治療、骨粗しょう症等の治療を行っており、院内の緩和ケアの窓口にもなっていて、周術期だけではなく慢性疼痛や緩和ケアなど幅広く学ぶことができます。

また兵庫県で数少ない麻酔科主導の無痛分娩を行っている施設でもあり、周産期医療へのかかわりも深く、産科麻酔の経験も豊富に積むことができます。

小さい子どものいる医師も多く、みんなで支えあい協力しながら楽しく働いています。とてもアットホームな雰囲気で、気軽に相談しながら成長できる働きやすい環境です。

■2025年度症例数

麻酔科管理全症例数　【　3137　】

小児(6歳未満)の麻酔　【　15　】

帝王切開術の麻酔　【　174　】

心臓血管手術の麻酔　【　0　】

胸部外科手術の麻酔　【　60　】

脳神経外科の麻酔　【　319　】

21. 独立行政法人国立病院機構　大阪刀根山医療センター

研修実施責任者：藤田　泰宣

専門研修指導医：藤田　泰宣　（麻酔）

潮田　梓　（麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：816

特徴：

- 呼吸器外科の麻酔を集中的に研修できる。呼吸器手術患者の麻酔管理は、全身管理の基礎になる重要な内容を多く含んでいる。他に整形外科があり、区域麻酔を積極的に取り入れている。また、術後疼痛管理チームを結成し、回診業務を行っている。
- 当センターには緩和ケアチームが活動しており、対象は主に肺癌患者である。週に２－３回の回診を行っており、麻酔科として週１回のカンファレンスに参加するなど積極的に取り組んでいる。

- 当センターの集中治療部は昨年度よりHCUとなった。呼吸器外科の術後症例は多くが入室対象だが、主に慢性呼吸器疾患や神経難病の呼吸不全の急性増悪患者の管理が多いのが特徴である。診療は専属の呼吸器内科医師や主治医が行いつつ、麻酔科としては、術後症例や急変患者の対応要請に積極的に応じている。

22. 社会医療法人社団十全会　心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓血管麻酔）

石井智子（心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：1142

特徴： 心臓外科領域の麻酔が主である。ＴＡＶＩ、ＭＩＣＳも症例数が多い。

23. 名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者：秋山 浩一

専門研修指導医：

研修実施責任者：秋山 浩一

専門研修指導医：

秋山 浩一（麻酔、心臓血管麻酔）

荒川 陽子（麻酔）

柴田 康之（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）

鈴木 章悟（麻酔、集中治療）

浅野 市子（麻酔、ペインクリニック）

川瀬 宏和（麻酔、集中治療）

尾関 奏子（麻酔）

園部 奨太（麻酔、集中治療）

山根 光和（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）

安藤 貴宏（麻酔）

赤根 亜希子（麻酔）

平井 昂宏（麻酔、集中治療）

佐藤 威仁（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

米倉 寛（麻酔、集中治療）

駒場 智美（麻酔）

谷口 菜奈子（麻酔）

藤井 祐（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）

天野 靖大（麻酔）

三澤 知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

特徴：

名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間7,500件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。

2025年度には、心臓血管外科727例、胸部外科537例、脳神経外科413例、帝王切開185例、6歳未満の小児472例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021年度からは小児へのDa Vinci手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。

10

産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から30分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。

心臓血管外科領域では、CABGや弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約10例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025年度には約80例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。

また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025年度からは肺移植も4例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。

そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導のClosed ICUである「外科系集中治療部（SICU）」の存在です。SICUでは2025年度には年間2,135例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行うClosed ICU体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。

麻酔科専攻医は3〜6ヶ月間のSICUローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。

さらに、週3回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養

うことができます。
名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています.

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

(ア)　採用方法

当専門研修プログラムの応募を検討する者は、採用担当者（下記連絡先）に問い合わせの上、基幹施設である阪大病院において採用面接を受ける。内定の通知があれば、2026年11月の一次募集に応募する。

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mailのいずれの方法でも可能であるが、e-mailの方が連絡つきやすい。

担当者：橋本　明佳（はしもと　はるか）
大阪大学大学院 医学系研究科 麻酔集中治療医学教室　助教
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘２－２
TEL 06-6879-3133　　FAX 06-6879-3139
E-mail hashimotoh@hp-icu.med.osaka-u.ac.jp
Website https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/anes/index.html

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

(ア)　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、４年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の４つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

１年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修３年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 か月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門

医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての国立病院機構大阪南センター、大阪はびきの医療センター、市立豊中病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。特に2024年4月から「医師の働き方改革」により時間外勤務時間の制限が設けられたことからこれを遵守します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。